

別紙様式 1

教科等研究会（中学校英語部会）

令和元年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して
～バックワードデザインによる授業作りをとおして～

2 研究経過

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
期日 6 月 3 日（月） 人数 27 人 場所 益城中学校	期日 8 月 1 日（木） 場所 益城中学校 内容 研修会	期日 10 月 29 日（火） 場所 甲佐中学校 授業者 松野晃三教諭	期日 1 月 23 日（木） 場所 木山中学校 授業者 植原光恵教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度は「主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して ～バックワードデザインによる授業作りをとおして～」という研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

① 第 1 回教科等研究会

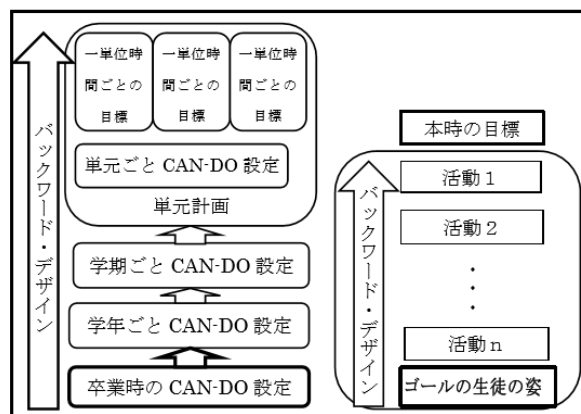
組織づくりを行い、学年部会で組織を構成し、研究授業の担当学年等を決めていった。

② 第 2 回教科等研究会

今年度も中学校単独での研修会になった。2020年度に実施される県中英研上益城・宇城大会に向けて、研究のあり方や組織づくりについて意見を出し合った。その後は学年部会に分かれ研究授業について事前研究会を行った。

③ 第 3 回教科等研究会

甲佐中学校の第 2 学年で授業研究会を行った。生徒たちが不定詞を学習する中で、学んだ内容を即興で英語を表現し、自分が将来就きたい職業を英語で発表するという授業を参観した。生徒たちが ICT 機器を積極的に活用して発表していた。その後の研究会では、バックワードデザインの策定について、多くの質問や活発な意見が出され、有意義な会となった。具体的には、指導と評価の一体化を図るために CAN-DO リストを作成し、「自分の将来の目標について、英語でクラスの人に伝えることができる」という目標を考えて、そこから逆算し、それを可能にする活動をバランス良く入れていくものである。それぞれの活動がつながると、生徒も必要観を感じるようになり、「この活動は何のためにおこなっているのか」と考えるようになる。「何のために?」「なぜ?」という疑問が、どのような力を付けようとしているのかを具体的に考えるきっかけになった。



④ 第 4 回教科等研究会

木山中学校の第 1 学年で授業研究会を行った。学習訓練がしっかりされており、テンポよく授業が進んでいき、生徒が発話する機会が非常に多く設定された授業であった。

※詳細は、4 実践事例にて紹介

(2) 成果と課題

- 上益城郡教科等研究会の全体研究テーマに沿って、生徒が「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを意識した授業の工夫や指導の工夫がしっかりと見られた。また、CAN-DO リストの見直しを行い、第 2 回研修会の際には CAN-DO の改訂版を作成することができた。
- 部会事前研究会を行い、指導案を検討したり、よりよいワークシートの教材を開発したりすることは、参加者全員がたくさんのアイデアを共有できるので、自分の授業実践や改善に

生かすことができ大変有効である。

- バックワードデザインの策定について、「このプログラムが終わった時には英語でこんなことができるようになる」という明確なものをもって、毎時間の授業展開を意識するように実践を行うことができた。
- 小学校での外国語活動が本格化していく中で、「小中連携」は非常に欠かせないものであるが、今年度も小学校外国語活動部会との合同夏季研修会が実施できなかった。小中連携の機会となるので、小中合同の研修を行うことが重要と考える。

4 実践事例

(1) 授業の概要

冬休みを利用して、アメリカに帰国したマイクと由紀のやりとりの話である。マイクからの手紙、マイクとの会話、マイクからのプレゼントのカチーナ人形を通して、由紀がアメリカの観光地や文化について学んでいく。歴史博物館や宇宙博物館、ホワイトハウスなど、子どもたちにとっても興味深い内容である。

言語材料は、規則動詞の過去形と疑問詞 **Why** と接続詞 **Because** である。時制については、これまでは現在形や現在進行形など、現在のことのみを表現してきた。過去形を学習することによって、表現の幅がさらに広がると考える。事前の話し合いの中で、「この授業で何ができるようになるのか」ということを議論した。今回の授業では規則動詞の過去形を用いて、過去のことについて表現する活動を取り入れた。また、授業中は可能な限り英語を使用することに尽力しているが、英語を苦手としている生徒への声掛けについては研究の途中である。

【授業研究会から】

① 自評

自分のクラスは物静かで、今日の授業はよく頑張っていた。学力差が大きいので、どのようにしたら全員が授業に参加できるかを考え、発表原稿を作成した後に、自分で予想される質問やその応答を用意するように指導した。

過去のことを伝える時、規則動詞だけでは言えない。不規則動詞も音声のみ指導を入れていた。しかし、この授業でそこまで求めてしまうと、苦手な生徒が取り残されてしまうので、規則動詞だけを使って表現するために、既習事項の表現を用いて質問できるようにした。2分目が言えるように、とは考えていたが、難しかった。

② 質疑

(1) 3年部より

Q:単元のゴールをどうイメージして、本単元での基本文を積み上げてきたか？

A:教科書やワークに出てきた規則動詞を使えるものを抽出して練習を重ねた。今まで学習した表現を使った質問ができるようにした。疑問詞を使った質問もできるクラスもあるが、少なくとも **Do~?** や **Did~?** でやり取りができるようにした。今後はパフォーマンステストをどんどん入れていきたい。

(2) 2年部より

Q:スピーチの形をつながりのある文にせず、過去の出来事であれば何でもよいから規則動詞を使って5文言う活動に設定した理由は？

A:自分で英文を書いてみた際に、規則動詞だけで表現することの難しさを感じた。2文ずつくらいならできたが、生徒ならなおさら難しいと判断した。

(3) 1年部より

A:(2年部の質問に対して)事前研では、当初日記をイメージしていたが、不規則動詞がないと表現が難しいと結論付けた。**Slow Learners** のことを考慮し、全員参加ができ、達成感がある課題設定を考えると、自分の過去の出来事をどんどん言って互いのことを知り合うことを大事にしたいと思った。本時の **Q&A** を通し、次回、内容につながりのある英文を作成するヒントになるのではないかなと思う。

③ 協議

- ・英語が得意な生徒にさらにレベルの高いものを目指すのはどうだろうか。つながりのある英文を言える生徒には言わせても良かったのではないかな。学力の高い生徒の学習保障を考えることも大事ではないだろうか。
- ・目指す生徒像をイメージして取り組んでいく。
- ・帯活動の成果があり、スムーズな **Q&A** 作りにつながった。

- ・積極的なやり取りができていた。
- ・スピーチはあいさつから、終わりは **Thank you.** 分からない語句はたずねる表現を押さえておくと、不規則動詞を使って発表する生徒がいても、その問題はクリアできたであろう。

(2) 学習指導案

第1学年3組外国語科（英語）学習指導案

令和2年1月23日（木）第5校時
指導者 教諭 植原 光恵

1 単元名 「Program 1 0 Mike's Visit to Washington, D.C.」
(Sunshine English Course 1 p 1 0 0～1 1 3)

2 単元について

(1) 単元について

本題材は、冬休みを利用して、アメリカに帰国したマイクと由紀のやりとりの話である。マイクからの手紙、マイクとの会話、マイクからのプレゼントのカチーナ人形を通して、由紀がアメリカの観光地や文化について学んでいく。歴史博物館や宇宙博物館、ホワイトハウスなど、子どもたちにとっても興味深い内容である。

言語材料は、規則動詞の過去形と疑問詞 **Why** と接続詞 **Because** である。時制については、これまでは現在形や現在進行形など、現在のことのみを表現してきた。過去形を学習することによって、表現の幅がさらに広がると考える。

(2) 指導にあたっては、以下の4点に留意する。

- ① 文法事項、基本文を定着させるため、それぞれを一覧表にする。そして、個別、グループ、一斉と形態を変えながら繰り返し行い、飽きないように工夫する。
- ② 教科書の本文の内容を理解させる際には、新出文法を含む文を訳せるか確認する。
- ③ 音読の際には、一斉（日本語をつける、つけない）、交互、グループなど形態を変えながら行う。
- ④ 英語で自分のことを伝える場面を設ける。その際、日本語をそのまま英語にするのではなく、平易な日本語にしてから英語にさせ、既習表現で書けるようにする。

3 単元の目標

- ① 過去の表現を用いて、自分がしたことを発表することができる。
- ② 友だちの発表に対して、質問をすることができる。
- ③ 教科書の本文を読んで、アメリカの観光地や文化を理解できる。

4 単元の指導計画

次	時	学習活動	評価基準と評価方法
1	1	規則動詞の過去形を理解し運用する。	【知】 【表】 過去形を用いて自分がしたことを説明できる。 (ワークシート)
	2	1 0 - 1 の本文内容を理解する。	【理】 マイクが冬休みにしたことを読み取ることができる。 (ノート)
2	3	規則動詞の過去形の疑問文を理解し、運用する。	【知】 【表】 過去形の疑問文を用いて相手がしたことを尋ねることができる。 (ワークシート)
	4	1 0 - 2 の本文内容を理解する。	【理】 マイクがアメリカの滞在を楽しんだか、ホワイトハウスを訪れたかを読み取ることができる。 (ノート)
3	5	Why と Because を理解し、運用する。	【知】 【表】 相手に理由を尋ねたり説明したりできる。 (ワークシート)
	6	1 0 - 3 の本文内容を理解する。	【理】 マイクがカチーナ人形についてよく知っている理由を読み取ることができる。 (ノート)
4	7	知りたい情報を引き出そう。	【関】 【表】 間違いを恐れず、相手に質問したり答えたりすることができる。 (パフォーマンス)

5	8	自分がしたことを書く。	【表】過去形を用いて自分がしたことを書ける。(ワークシート)
	9	自分がしたことを発表する。(9:本時)	【関】【表】過去形を使って自分のことを発表できる。また、友だちが発表したことに対して、間違いを恐れずに質問できる。(パフォーマンス)

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- 過去形を用いて、自分がしたことを発表することができる。
- 友だちが発表したことに対して、質問することができる。

(2) 評価

B基準：時々原稿を見ながら発表できた。時々用紙を見ながら質問できた。

A基準：原稿を見ずに、堂々と大きな声で発表できた。用紙を見ずに、堂々と大きな声で質問できた。

(3) 展開

過程	学習活動	評価及び教師の手立て	備考
導入 10分	1 挨拶をする。	○テンポ良く元気に挨拶させる。	カード 原稿
	2 規則動詞を言う。	○発表に出てくる動詞をカードにして、事前準備の1つとする。	
	3 個人練習をする。	○原稿を見ずに言えるよう、最後の練習をさせる。	
	めあて：過去形を用いて、自分がしたことを発表することができる。 友だちが発表したことに対して、質問することができる。		
展開 35分	4 班で発表する。	○一人が発表し、終了後に他の生徒が質問するように指示する。それを全員が終わるまで繰り返す。 ○全員が発表後、代表を決めさせる。	評価シート
	5 班の代表がスピーチをする。	○発表を聞いた子どもたちから質問を募る。 ○教師からも質問し、詳しく話を聞く。	
終末 5分	6 振り返りをする。	○振り返りシートに記入させ、次にどのような点に気をつければいいのかを自覚させる。	振り返りシート